

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

11

November | 2025

高橋FPの社長が知りたいお金の話

「賃上げ」を支援する助成金と税制

海外経営者列伝

メアリー・バーラ

データと画像で考える、未来の世界

サイバーセキュリティ

11月の主要経済カレンダー

米雇用統計、米CPIほか

アジアの世界遺産

古代都市スコタイと周辺の古代都市群

マネークリップ

マーケットの影響を減らす方法とは？



写真:アフロ

大きな変化への備え

「米ドル離れ」について考える

最近、目にすることが増えてきた「米ドル離れ」というキーワード。今月は、通貨の役割なども含めて、為替相場について考えてみよう。円安が進む一方で、米ドルそのものの価値が揺らいでいるという視点は、意外と見落とされがちだ。

日本の投資家にとって、一番なじみの深い米ドル円相場。今年の4月以降、これまで高い相関関係にあった日米の金利差と米ドル円相場との相関が薄れ、円安が進展してきた。そのため米ドル円のチャートだけを見ていると、米ドルに勢いを感じるかもしれない。しかし、少し視野を広げて見ると、米ドルは特に欧州通貨など主要通貨に対して減価しており（図表1）、グローバルな視点では米ドル安が大きなトレンドとして認識されつつある。「米ドル離れ」という言葉を、ニュースや投資レポートで目にする機会も増えてきた。いま、米ドルに何が起きているのだろうか。

通貨の代表としての顔を持つ米ドル

米ドルは基軸通貨とされる。その価値低下は、米国固有の要因と、通貨の代表としての構造的な要因に分けて考えることが適切だろう。

2025年9月に再開されたFRBによる米政策金利の引き下げに伴う各通貨との金利差の変化などは、前者の要因として見ることができそうだ。

一方で、より大きく重要なのは構造的な要因だ。通貨には一般的に「価値保全」「交換（決済）」「価値尺度」の三つ



の機能がある。うち「価値尺度」は、前の二つが安定して機能していることが前提となるため、実質的には「価値保全」と「交換」が通貨の本質的な役割と言える。

米ドルの地盤沈下と一緒に進む金価格の上昇は（図表2）、各国中央銀行による金の買い増しと連動しているとされる。特に新興国の中銀によるものが顕著で、中国では金が外貨準備高に占める割合は3年間で2倍になり、ポーランドの外貨準備高における金の比率は2割に達した。米ドル比率の緩やかな低下（図表3）と合わせて、「価値保全」機能が見直されつつあることを示唆している。

もう一つの重要な機能である「交換」はどうだろうか。米ドルは依然として国際決済の中心的な役割を担っている。しかし、この地位も、暗号資産の台頭によって揺らぎ始めている。米国では、米ドル建てステーブルコインの法制化が進み、決済手段としての米ドルの制度的な再定義が始まっている。ウォルマートやアマゾンなどの非金融企業がステーブルコイン導入を検討しており、銀行も対抗策として共同発行を模索していることが報じられている。決済インフラの主導権を巡る競争は、今後さらに激化するだろう。そして、もし暗号資産による国際決済が主流になれば、米ドルの役割は決済手段そのものから担保へ、つまり主役から脇役へと変化する。

ポートフォリオを、通貨から見直す必要も

もちろんこのような変化は、急速に進むものではない。「米ドル離れ」という言葉は強いが、もし仮に米ドルが基軸通貨の地位をその他の通貨や手段に譲ることになったとしても、その変化はゆっくりと進むだろう。英ポンドから米ドルへの基軸通貨の交代は、第一次世界大戦後の英国の財政悪化から始まり、1930年代の金本位制崩壊を経て、1944年のブレトンウッズ体制によって制度的に確立されるまで、約30年を要した。

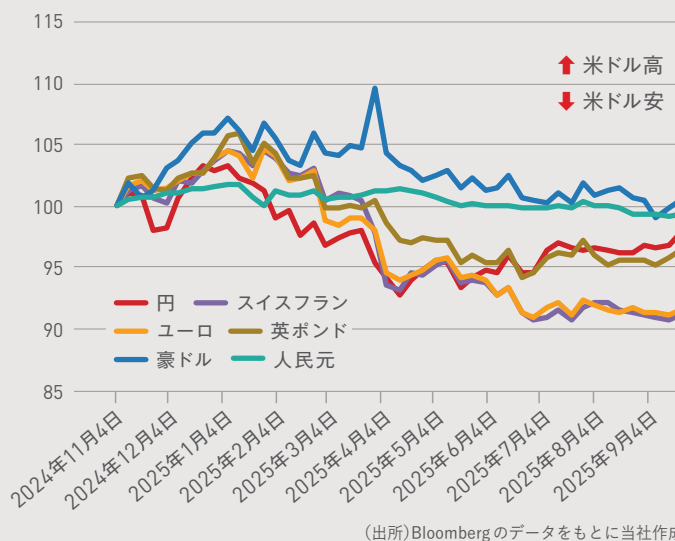
それでも、金のような制度に左右されにくい価値保全資産の重要性が高まっていく可能性は高そうだ。ポートフォリオに少量でも保険として入れておくことで、通貨の不確実性に備えることができるかもしれない。また、金融市場における米国の存在感の大きさにも注意を払うべきだろう。例えば、世界株式に連動するインデックスファンドに投資した場合、概ね2/3は米ドル資産となる。通貨の偏りを意識する必要があるだろう。

*

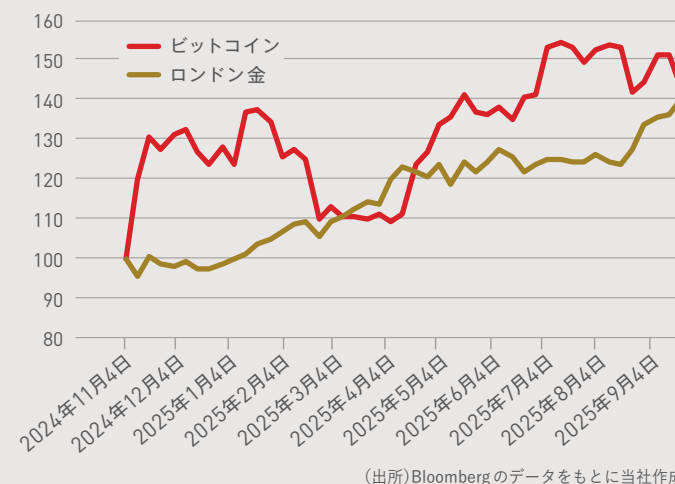
現在、最も使われる通貨である米ドルが、これからも最も信頼される通貨であり続けるかは、今後の制度設計と市場の選択に委ねられている。投資家としては、こうした通貨の構造変化に備える時期が来ているのかもしれない。ご自身のポートフォリオを「通貨構成」という観点で見直してみてもどうか。

M

■ 図表1 各通貨から見た米ドルの価値の推移
(2024年11月4日週～2025年9月22日週、当初=100)



■ 図表2 ビットコインと金価格の推移(米ドルベース)
(2024年11月4日週～2025年9月22日週、当初=100)



■ 図表3 各国中央銀行の外貨準備高における通貨構成の推移 (1999年～2024年)

